



本書は、日本看護科学学会第26～29回学術集会交流集会にて、著者らが継続的に発表してきた内容をさらに洗練させ、1冊の書籍としたものである。『看護研究』誌でも、「質的研究論文のクリティークのためのサブストラクション」と題して40巻2号(2007年)、41巻4号(2008年)にそれぞれ関連論文が掲載されている。評者は、サブストラクションを質的研究の評価に導入しようとする試みが新鮮に思えたので、大学院の講義のなかでも参考文献として提示してきた。

本書冒頭にも述べられているように、本来、サブストラクションとは、仮説検証型研究において、理論-デザイン-分析モデルの一貫性を評価する上で、活用可能な技法である。評者が博士課程の院生時代、カリフォルニア大学サンフランシスコ校では、入学して最初

質的研究のクリティーク・論文作成のためのツールの探求

【評者】

山崎あけみ

東京大学大学院医学系研究科・健康科学看護学専攻予防看護学講座・家族看護学分野講師

の学期に、Dr.Holzemer による系統立てた講義が必須科目であった。以来、研究論文のクリティークだけでなく、計画書作成段階においても、拠り所とした技法であった。

本書の最大の魅力は、第4～5章にかけて、さまざまな質的研究方法論別のサブストラクションワークシートを紹介し、実際にそれらに則って論文をクリティークしている点である。著者ら自身の論文もその例を用い、論文中に明瞭に記載できている点・反対にできていない点をも誠実に評価している。このような具体的なページがあると、研究本は少し敷居が高いと敬遠しがちな読者にも、身近なものと感じるだろう。ワークシートのエクセルファイルは、読者サービスとして医学書院ホームページからダウンロードが可能である。

さて、拠って立つ理論、研究デザイン、分析モデルの論理的一貫性を保持しつつ、質的研究に取り組むことは容易ではない。各方法論の学問的背景には長い歴史があるので、納得がゆくまで関連する書籍・文献を熟知し、自分の立ち位置を了解した上で、方法論を選択し、データ収集・分析を行なうには年単位の訓練が必要である。まして、他人の書いた論文のそれを評価するなど、誰もが簡単にできることではない。質的研究に精通した読者は、ワークシートの穴埋め作業などで可能だろうか、違和感をもたれるかもしれない。

しかし著者らは、ワークシートの完成を読者に求めているわけではない。「誰もが活用できる一つの道具をここに提案するので、質的研究論文の質について、一緒に学び続けましょう」という声が、本書のいたるところから伝わってくる。例えば、クリティークの視点を提示し、ワークシートの項目の理解に深みを与えており、またコラムでは、初学者が疑問を抱きそうなトピックについて専門的な文献を交えて解説している。さらに、クリティークだけでなく、質的研究を計画する段階への適用についても最終章では挑戦している。

研究の解説書は、いまだ欧米のものの翻訳本も少なくないなか、質的研究の質を探求するための具体的な方法論を提案しているオリジナリティに敬意を表したい。

質的研究の 実践と評価のための サブストラクション

北素子・谷津裕子著

B5版・152頁・2009年発行

定価2,940円(定価2,800円+税5%)

医学書院(TEL: 03-3817-5657)

